

## 第2号議案

社会資本整備総合交付金事業(道路改築)  
 国道354号 大泉邑楽バイパス 大泉町、邑楽町

着工年度  
 評価理由

平成8年度  
 社会状況の変化  
 (事業計画の変更)

## 1. 事業の目的

国道354号大泉邑楽バイパスは、東毛広域幹線道路の一部であり、周辺道路の慢性的な混雑の解消を図るとともに、沿線の産業立地、物流の効率化及び地域間交流の促進のため、バイパスを整備するものである。

(H22現道:交通量20,472台 混雑度 1.30)

○当初計画(事業費82億円)

〔バイパス部 延長3.05km 暫定2車線〕  
 〔現道拡幅部 延長1.80km 4車線整備〕  
 平成25年度上期に完成となる見込みである。

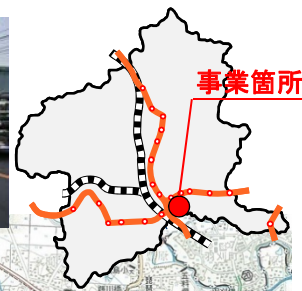
○4車線化工事の追加(追加事業費10億円)

(バイパス部3.05km 4車線化工事)

周辺環境の変化(東毛広域幹線道路の早期全線供用、国道122号八重笠道路供用)により、当初想定より交通量が増加することが予想されるため、4車線化工事追加及び平成27年度までの事業期間延長により、事業を推進する。(H42推計:35,400台/日)



渋滞する国道354号(現道)



## 2. 事業概要と進捗状況

## 事業概要

事業場所	大泉町北小泉～邑楽町篠塚	
区分	今回	前回再評価時(H22)
全体事業費	9,600百万円	8,200百万円
全体事業費増減の理由	4車線化工事を追加	暫定2車線整備まで
事業期間	H8～H27	H8～H25
事業内容	道路延長 4,850m 幅員 25.0m(4車線)	道路延長 4,850m 幅員 13.0m(暫定2車線)

## 事業経緯

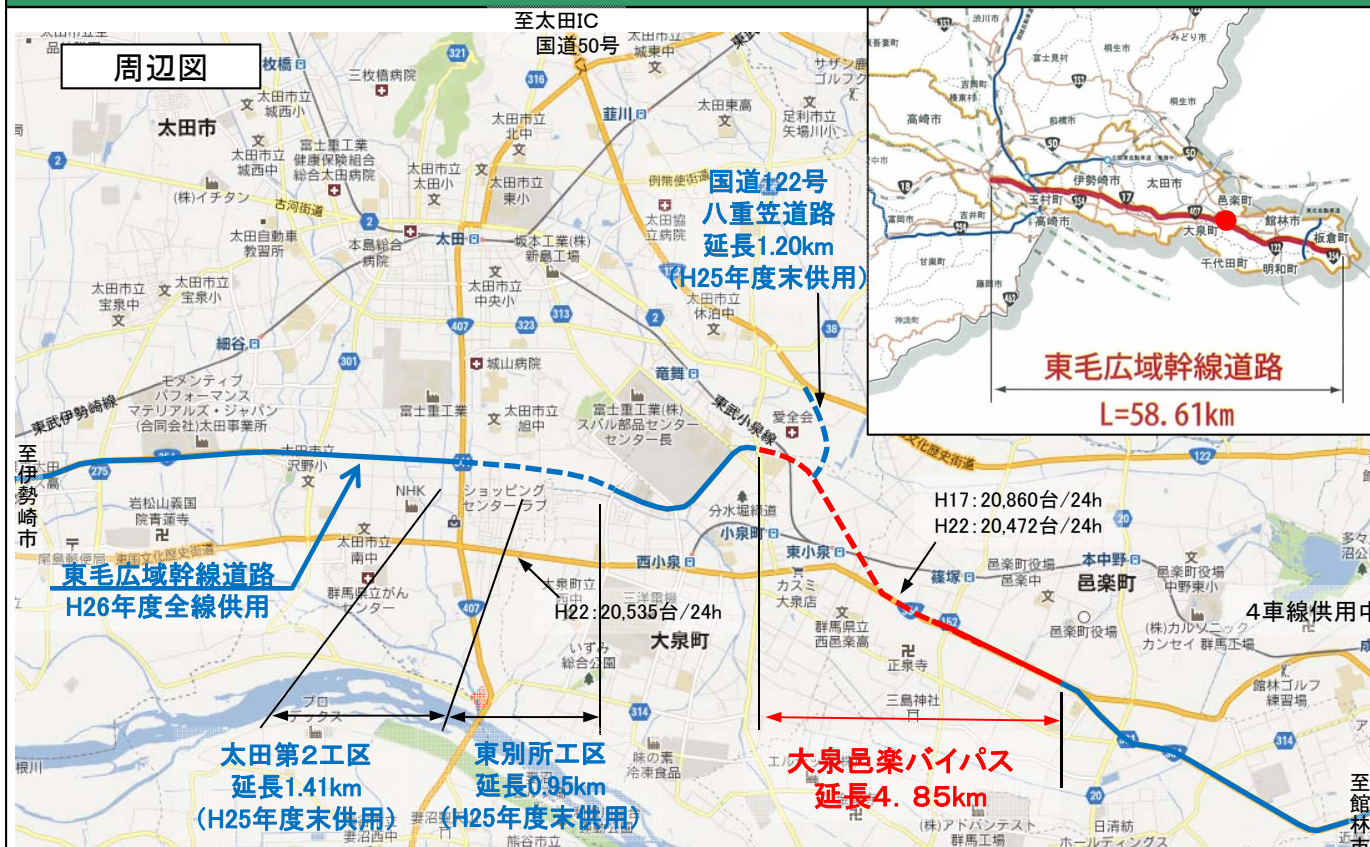
年度	主な経緯
H8	新規事業化
H11	現道拡幅部着手
H15	現道拡幅部 一部供用(1,200m)
H17	現道拡幅部 一部供用(1,800m)
H25	暫定2車線供用

## 進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の 進捗状況 (進捗率)
事業費	9,600百万円	8,585百万円 (89.4%)	6,187百万円 (64.4%)
用地買収	137,439㎡	137,105㎡ (99.8%)	136,614㎡ (99.4%)
計画延長	4,850m (4車線)	1,800m (37.1%)	1,800m (37.1%)
		・H24年度末時点 ・H25上期に全線暫定2車線供用となる予定	



## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



### 平面図





### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

現道(国道354号)は、慢性的に混雑している状況であり、バイパス整備による交通分散が必要である。

#### ■現道拡幅部交通量

#### 国道354号 交通量調査結果 邑楽町大字篠塚

	H17センサス	H22センサス
交通量	20,860台/24h	20,472台/24h
混雑度	1.63	1.30
混雑時旅行速度	26.9km/h	28.3km/h

事業計画時には想定されていなかった以下の事業が進行中であり、今後のさらなる交通量増加増加に対応するため、2車線の早期供用及び4車線化が必要である。

#### ■進行中の事業

- ① 東毛広域幹線道路：H26年度早期全線供用(暫定2車線を含む)
- ② 国道122号八重笠道路：H25年度末供用予定

### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

現道拡幅区間は平成17年度に完成し、渋滞が解消しており、十分な事業効果が確認されている。

バイパス区間の暫定2車線整備は、平成25年度上期に開通予定であり、周辺道路の混雑緩和、移動時間の短縮及び現道からバイパスへの交通量転換による歩行者等の安全性向上等の効果が見込まれる。

バイパス部の用地買収は完了しており、今後のさらなる交通量の増加に対しては、バイパス部の4車線化が適当である。



改良後現道拡幅区間状況

### 費用便益分析

単位:千円

		前回再評価時		今回再評価時		
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		
基準年		平成21年		平成25年		
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比	
費用 (千円)	工事費	9,073,000	95.0%	10,868,000	94.9%	
	維持管理費	477,000	5.0%	581,000	5.1%	
費用合計(C)		9,550,000		11,449,000		
便益 (千円)	走行時間短縮便益	55,146,000	87.1%	86,316,000	90.9%	
	交通事故減少便益	2,062,000	3.3%	5,446,000	5.7%	
	走行経費減少便益	6,108,000	9.6%	3,230,000	3.4%	
便益合計(B)		63,316,000		94,992,000		
費用対効果分析(B/C)		6.63		8.30		

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画

不測の事態により長期化  
(4車線化追加)

東毛広域幹線道路の全線供用予定が平成27年度から平成26年度へ1年前倒しとなったこと及び国道122号八重笠道路が平成25年度末に供用予定であり、今後のさらなる交通量増加が予想されるため、継続してバイパス区間の延長3.1kmを4車線化工事に着手する必要があるため、事業計画を変更し、工期を平成27年度まで2年間延長することによる。



国道354号玉村伊勢崎バイパス工事状況  
(平成26年度東毛広幹道が全線供用予定)



国道122号八重笠道路工事状況  
(平成25年度末供用予定)

## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

東毛広域幹線道路は、県内高速交通網の効果を最大限に活かすための「7つの交通軸構想」の東毛の主軸であり、県中央部と東毛の工業地域や高速道路を繋ぎ、地域間交流、経済活動の活性化及び企業誘致の推進に資する重要な路線である。

国道354号大泉邑楽バイパスは、上記、東毛広域幹線道路の一部であり、現道の慢性的な混雑の解消を図るとともに広域的な物流の効率化や地域間交流の促進を目的としたバイパス整備事業である。

当初計画(暫定2車線整備)は、バイパス部に跨線橋が2箇所あることから、当初から長期間を要する計画となっているが、現道拡幅区間は平成17年度までに4車線供用となり、予定どおり平成25年度に暫定2車線整備が完了となる見込みである。

現在においても周辺道路は混雑し、日常生活、産業活動に支障をきたしており、さらに東毛広域幹線道路の全線開通予定が平成27年度から平成26年度へ1年前倒しとなったこと及び平成25年度末に国道122号八重笠道路が開通となること等の周辺環境の変化から、暫定2車線開通後に交通量が著しく増加することが予想されるため、事業計画に4車線化工事を追加することで、迅速に課題に対応したい。

大泉邑楽バイパスは、混雑解消はもとより沿線の産業立地、物流の効率化及び地域間交流の促進等の効果が期待されるため、事業の必要性、重要度は高く、今後の交通量増加に対応するための4車線化工事の追加し、事業を継続することが妥当である。